

御嶽海後援会便り N.O. 34

令和7年2月24日

令和7年一月場所 西前頭七枚目 2勝13敗

初日白星も四日目から白星なしで 4場所連続負け越し

二月に入り二度の寒波が日本列島を襲い、地域によっては過去最大の積雪量となっているようですが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

御嶽海関は、十一月場所で負け越しましたが、番付運に恵まれ番付を下げずに西前頭七枚目で令和最初の場所に臨みました。

初日、遠藤関をタイミングよく突き落として破り、今場所も白星発進しました。二日目、一山本関に敗れましたが、三日目、美ノ海関を組み止めた後、御嶽海関のまわしの結び目がほどけ、「まわし待った」となりました。40秒近く中断となり、再開後、素早く攻めた御嶽海関が寄り切りで白星をつかみました。四日目、初顔となる欧勝馬関に引かせる展開に持ち込んだものの足を運べず叩き込みで敗れました。五日目、過去の対戦で勝ち越している宝富士関にも敗れ、序盤を2勝3敗で終えました。

六日目、ここまで全勝で初顔となる千代翔馬関に思い通りの相撲を取られ、幕内800回目の出場を飾ることはできませんでした。七日目、分の悪い高安関、中日、初顔から6連敗している平戸海関にも敗れ、5連敗となりました。九日目、翠富士関に対し粘り強い相撲を取ったものの土俵際の投げの打ち合いに屈しました。十日目、正代関に土俵際で突き落としを見せたものの敗れ、負け越しが決りました。

十一日目、ともに白星があがっていない琴勝峰関にも敗れ、十二日目以降も連敗を止めることができませんでした。千秋楽、苦労を重ね今場所幕内に上がった玉正鳳関との対戦が組まれ、立ち合いから土俵際まで攻め込んだものの突き落としに足を運べず、体を入れ替えられ、送り出しで敗れ、2勝13敗で場所を終えました。

優勝は、千秋楽で12勝3敗の王鵬関、金峰山関との巴戦を制した大関豊昇龍関で2度目の優勝を果たし、場所後、横綱に推挙されました。また、場所中に横綱照ノ富士関が引退をしました。今回も場所を振り返り、紙面とします。

西前頭七枚目としての一月場所

御嶽海関



場所前 調子は、良いとも悪いとも言えない。今までと違う一年になりそうな気がする。四股、すり足、てっぽうを1時間くらいやって、食事も改善したい。勝ちにこだわってきたい。

場所を終えて まだまだ取れる。体をつくり直して、来場所で2桁を目指してほしい。
(出羽海親方)

来場所に向けて 気持ちをしっかりとつくって、自分もしっかりとやっていく。

場所	勝敗	取組	決まり手	コメント (各報道・情報機関からの要約)
初日	○	前	七遠	藤(突き落とし)「流れだった。ちょっと踏み込まれて上体が浮いてしまった。初日に勝ったことは気持ちがいい。勝っておごらず。このまま集中して、気持ちを引き締めていきたい。」
二日目	●	前	六一山本	(寄り切り)「一步目が遅いね。悪い面が出てしまった。残した後の動きが悪い。右が入ればすぐえたけどね。」
三日目	○	前	九美ノ海	(寄り切り)「先に攻めることを心がけた。」
四日目	●	前	九欧勝馬	(叩き込み)「せっかく(引くまで)誘ったのみ・・・。足が半歩どころじゃない。2歩出でていない。すり足の稽古が足りていない。」
五日目	●	前	八宝富士	(寄り切り)「しつくりこないというか、これからどうやっていくか。」
六日目	●	前	五千代翔馬	(上手投げ)「あんな内容だと話すことはないもないよ。」

※幕内800回目出場 ※横綱照ノ富士関引退

- 七日目 ● 前六高 安 (寄り切り) 「相性はあると思う。取りづらさはないけれど勝てない。前向きに行きますよ。」
- 中日 ● 前五平戸海 (寄り切り) 「見ての通り。体は悪くない。むしろいいからころ、ああやつて最後まで粘れた。後半戦のために力を残していると思いたい。土俵際で残っているから、力は残っているでしょう。」
- 九日目 ● 前十一翠富士 (下手投げ) 「こういう流れになると、もう変わらない。この連敗中に変えたかった。相撲は難しいな。疲れた。」
- 十日目 ● 前四正代 (押し出し) ~取材に応じず~
- 十一日目 ● 前四宇良 (押し出し) 「横の動きが遅い。相撲勘が鈍っているところはある。」
- 十二日目 ● 前十三琴勝峰 (寄り切り) 当たり勝てなくなったことに、「分かっている。だから、いろいろ考える。」
- 十三日目 ● 前十明生 (寄り切り) 取り口を振り返る質問に、「分からぬ。覚えていない。」
- 十四日目 ● 前二熱海富士 (押し出し) 「勝てないねー。千秋楽は誰が相手でも一緒。自分が白星をつかむか、黒星を最後まで重ねるか。」
- 千秋楽 ● 前十六玉正鳳 (送り出し) 「人が決めること。100%、自分が大丈夫なんてことはない。」

○一月場所グラフ (六日目)

○雷電像



幕内800回目の土俵



揮毫は時津風理事長 (元横綱双葉山) で、除幕式にも参列した。

「諏訪大社上社本宮の雷電像について」

雷電像は、諏訪大社本宮の境内に設置されています。

前回の後援会便りで、雷電像は、藏前国技館に設置がかなわなかつたことを記載しましたが、作者 (彫刻家矢崎虎夫氏) が茅野市出身、諏訪大社は、相撲の始祖とされる建御名方神を祭る神社ということで、奉納されたとのことです。

なお、毎年9月15日には、平成20年長野県無形民俗文化財に指定された「十五夜祭奉納相撲」が行われています。また、横綱千代の富士関と横綱貴乃花関の優勝額も奉納されています。

先場所は、大きく負け越し、三月場所は、どの番付で土俵に上がるか分かりませんが、角界入りして、10年目の土俵を迎えます。出羽海部屋でも長野県においても御嶽海関に続く関取の誕生が望まれている中、まだまだ土俵上で元気な姿を見せ、自身に続く関取誕生につなげてほしいと思います。会員の皆様方には、引き続き応援をよろしくお願ひいたします。

※御嶽海後援会では新弟子を希望する方の情報を募集しています! 情報をお持ちの方は御嶽海後援会まで!